

# 近世文人旗本の東西交信 記録『飛檄』を読む

語り： 笹田将樹 助教  
(愛知淑徳大学)

『飛檄(ひげき)』は、江戸時代中期の旗本で著述家、三橋成烈(みつはしなりてる、1726~1791)が、安永期(1772~1780)の大坂在番中に、江戸在住の親族朋友と交わした往復書簡集です。安永二年十月から翌三年六月までの書簡群と、安永七年八月から翌八年七月までの書簡群から成り、当時の武家知識人の日常生活や交友関係、典籍享受の実態を探る上で、貴重な発言を多く含んでいます。

今回は、そこから選りすぐりの数通取り上げて、成烈の人物像や文学観に触れながら、こうした資料が今日に伝えられたことの意味について考えたいと思います。

2018年 9月 6日 木 午後6時

名古屋大学中央図書館2階OKB高木家文書資料館

参加無料  
申込不要  
会員以外の方も歓迎します

名古屋大学附属図書館友の会

TEL 052-789-3684

FAX 052-789-3694

E-Mail tomo@nul.nagoya-u.ac.jp

URL <http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/tomo/>

(後援)

名古屋大学

附属図書館,

同 研究開発室

